

## 熊本県における「中間土場」運営の支援について

H28. 12. 6 熊本県林業振興課

### 1) 目的

近年、大型製材工場や合板工場の規模拡大に加えて、木質バイオマス発電所の稼働等により約30万m<sup>3</sup>の需要が発生しているものの、低質材や大径材の供給体制が未整備であり、県外からの入荷が多い状況。

このことから、各需要（ABC材）に応じた供給体制を構築し県産木材の供給量を増やすため、山側で分別し大ロットを加工場へ直送し流通コストを削減する機能を有する「中間土場」の整備・運営を支援。

### 2) 事業概要

（県事業名）くまもと木材新流通システム構築事業

（財源）地方創生加速化交付金（H28実施分）

（補助対象）土地借上料、労務費、光熱費、機械借上料、簡易な用地整備費等

（補助率）2/3（1年目）、1/2（2年目）、1/3（3年目）

### 3) 実績

	地域	事業主体	開始	実績（H28）
1	五木村	熊本木材(株)上球磨支店	H27	629m <sup>3</sup> （4～10月分）
2	阿蘇市	阿蘇森林組合	H27	4,691m <sup>3</sup> （4～10月分）
3	錦町	くま中央森林組合	H28	現在、土場整備中

### 4) 現状と課題

木質バイオマス発電や輸出用丸太（C材）は概ね順調に集荷されているものの、製材工場向けの丸太（A材）の取扱量が少ない状況であり、素材生産業者と製材工場側とのマッチングが必要。

### 5) 五木村での取組（6月22日）

地域の素材生産業者を対象に、原木を各用途（製材用、合板用、発電用、輸出用）に仕分けする場合の基準（曲り、節、長さ等）について共通認識を図るための説明会を開催。

具体的には、「C材の中で長さ4m、矢高10cm以内、末口20cm以上、節が少ないものについては合板、それ以外は価格を見ながら発電用か輸出材」といった説明があり、参加者からは「見る人で判断が異なり難しい」等の発言有り。

今後も、現地研修会等を通じた情報共有の取組が必要。



くまもと木材新流通システム構築事業  
＜中間土場位置図＞

